

**製品名: E2F-3 (アセチル-Lys168) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab06185**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	アセチル化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、防腐剤として 0.02% の新タイプ防腐剤 N と 50% のグリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:10000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	E2F3
別名	E2F3 KIAA0075
遺伝子 ID	1871.0
SwissProt ID	O00716
免疫原	AA 範囲: 130-200 のヒトタンパク質から合成されたアセチルペプチド

**背景**

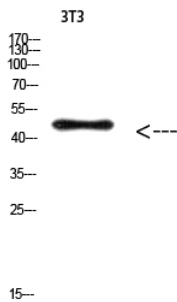
この遺伝子は、DP 相互作用パートナータンパク質との結合を介して機能する転写因子の小規模ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は DNA 内の特定の配列モチーフを認識し、網膜芽細胞腫タンパク質（pRB）と直接相互作用し

て、細胞周期に関与する遺伝子の発現を制御します。この遺伝子のコピー数と活性の変化は、多くのヒト癌で観察されています。この遺伝子の疑似遺伝子は、2番染色体と17番染色体上にあります。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq提供、2013年3月]機能: E2認識部位 (5'-TTTC[CG]CGC-3') を介して DP タンパク質と協調的に DNA に結合する転写活性化因子。この部位は、細胞周期制御や DNA 複製に関与する多くの遺伝子のプロモーター領域に存在します。DRTF1/E2F 複合体は、G1 期から S 期への細胞周期の進行を制御する機能を果たします。E2F-3 は細胞周期依存的に RB1 タンパク質に特異的に結合する。類似性: E2F/DP ファミリーに属する。サブユニット: DRTF1/E2F 転写因子複合体の構成要素。DP-1 と協調的に E2F 部位に結合する。網膜芽細胞腫タンパク質 RB1 および E2F 転写活性化ドメインを阻害する関連タンパク質 (RBL1 など) と相互作用する。EAPP に結合する。

## 研究分野

Cell\_Cycle\_G1S;Cell\_Cycle\_G2M\_DNA;がんの経路;膵臓がん;神経膠腫;前立腺がん;黒色腫;膀胱がん;慢性骨髄性白血病;小細胞肺がん;非小細胞肺がん;

## 画像データ



500倍希釈の抗体を用いた3T3細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は1:20000倍希釈した。